

Secure Back® 動作要件	Secure Back® Manager = 集中管理用ソフトウェア Secure Back® Client for PC = PC用クライアントソフトウェア Secure Back® Client for Server = サーバ用クライアントソフトウェア Secure Back® Enterprise Manager = 統合管理用ソフトウェア
■ Secure Back® Manager Secure Back® Enterprise Manager	オペレーティングシステム (32ビット/64ビット、日本語版のみ) Windows Server 2012 Standard Windows Server 2012 R2 Standard Windows Storage Server 2012 Workgroup / Standard Windows Storage Server 2012 R2 Workgroup / Standard Windows Server 2016 Standard Windows Storage Server 2016 Workgroup / Standard Windows Server 2019 Standard / Datacenter ※ WindowsのFSRM(ファイルサーバーリソースマネージャー)機能を有効にご利用ください。 CPU Intel、AMD または互換プロセッサ サーバ用プロセッサを推奨 メモリ 4GB以上のRAM ※お使いのOSやソフトウェアによって必要なメモリは異なります。 ストレージの空き容量 Cドライブに2GB以上の空き容量 ストレージの構成 任意のドライブをシステム領域とデータ領域に使用します。 ※NTFSフォーマットされたローカルディスクであることが必要です。 通信ポートSecure Back® Manager インバウンドポート: HTTP(TCP80※1)、ファイル転送(TCP26000※2)、リストア(TCP26994) バックアップサーバ内部通信ポート: TCP25000※1※3、TCP3306※1 アウトバウンドポート: HTTPS(TCP443※4) SMTP(TCP25※5) ※1 インストール時に任意のポートに変更可能 ※2 Secure Back Enterprise ManagerはTCP26000-26999 の1000ポートから動的に使用 ※3 設定したポートから連続する1000ポートを動的に使用 ※4 Secure Back Managerのアップデート機能利用時に使用。プロキシサーバにも対応 ※5 メール送信機能利用時のみ。お使いのSMTPサーバに合わせて任意のポートを指定可能 通信ポートSecure Back® Enterprise Manager インバウンドポート: HTTP (TCP80 ※1) 内部通信ポート (TCP25500 ※1※2、TCP3306 ※1) Secure Back Manager通信ポート (TCP26995-26999の範囲) アウトバウンドポート: HTTPS (TCP443 ※3) Secure Back Manager通信ポート (TCP26995-26999の範囲) ※1 インストール時に任意のポートに変更可能 ※2 設定したポートから連続する500ポートを順番に使用 ※3 アップデート機能利用時に使用。プロキシサーバにも対応 対応Webブラウザ Microsoft Internet Explorer 11 以降 ※ JavaScriptを利用 その他 LANに接続されていること。 Apache、PHP、MySQL(それぞれ各バージョン)がインストールされていないこと。
■ Secure Back® Client for PC	オペレーティングシステム (32ビット/64ビット、日本語版のみ) Windows 8.1 各エディション Windows 10 Home / Pro / Enterprise CPU Intel、AMD または互換プロセッサ メモリ 4GB以上のRAM ※お使いのOSやソフトウェアによって必要なメモリは異なります。 ストレージの空き容量 インストールに30MB以上の空き容量 ログ領域に100MB以上を推奨 メールバックアップ時は、メールデータと同容量のテンポラリ領域が必要となります。 ※メーラによってはテンポラリ領域を使用しません。 その他 Secure Back Manager 搭載サーバに接続できること (通信ポートは「Secure Back Manager / Secure Back Enterprise Manager」を参照) ストアアプリ版 Outlook には対応しておりません。
■ Secure Back® Client for Server	オペレーティングシステム (32ビット/64ビット、日本語版のみ) Windows Server 2012 Standard Windows Server 2012 R2 Standard Windows Storage Server 2012 Workgroup / Standard Windows Storage Server 2012 R2 Workgroup / Standard Windows Server 2016 Standard Windows Storage Server 2016 Workgroup / Standard Windows Server 2019 Standard / Datacenter CPU Intel、AMD または互換プロセッサ メモリ 4GB以上のRAM ※お使いのOSやソフトウェアによって必要なメモリは異なります。 ストレージの空き容量 インストールに30MB以上の空き容量 ログ領域に100MB以上を推奨 その他 Secure Back Manager 搭載サーバに接続できること (通信ポートは「Secure Back Manager / Secure Back Enterprise Manager」を参照)

■ 仮想化環境について
本製品はOS上で動作するソフトであるため、仮想化環境でも動作いたします。
なお、仮想化環境の特性上、お客様の環境によってはパフォーマンスに影響を
与える可能性もございます。あらかじめご了承ください。

※ 動作要件は予告なく変更される場合がございます。
※ 動作要件の最新情報はアップデータのWebページにてご確認ください。
※ 掲載している画面はすべて開発中のものです。
※ Secure Backはアップデータの登録商標です。
※ その他、記載された会社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。

集中管理型バックアップソフト

Secure Back®

製品カタログ Ver 1.5

対応

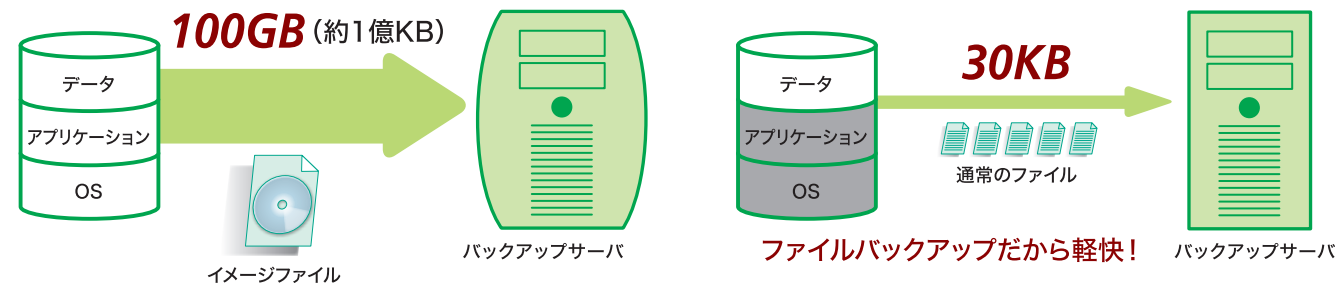
Windows 10 Windows Server 2019

意識せず軽快に使えるデータバックアップソフト

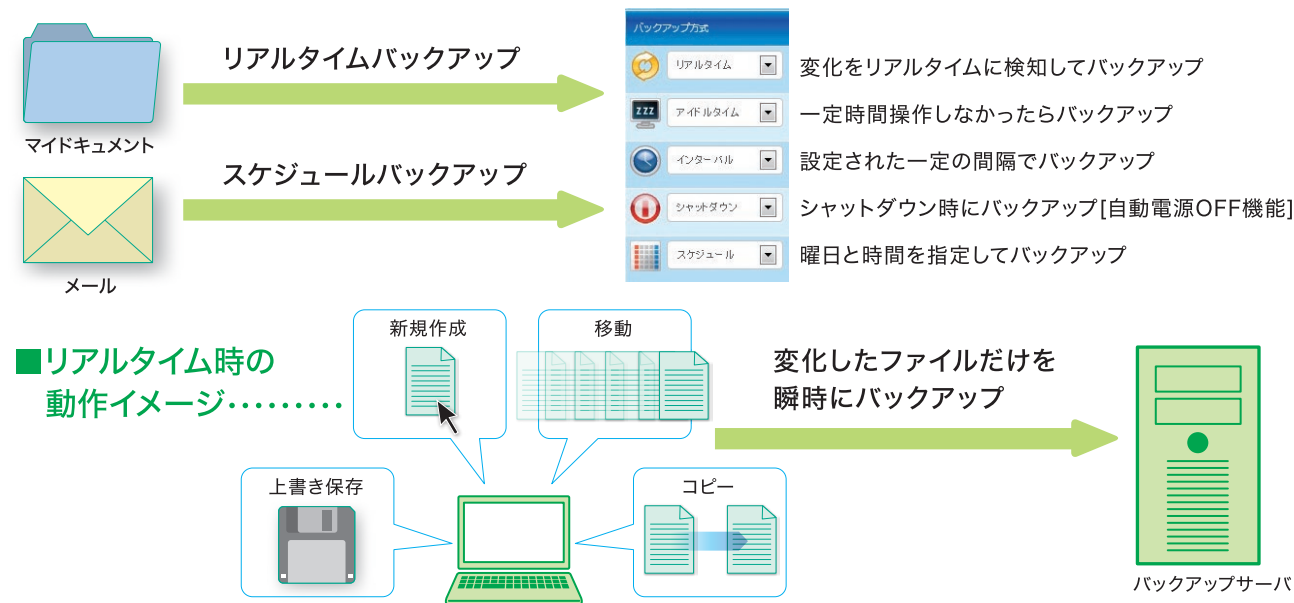
ファイルバックアップ 瞬時にバックアップを終わらせコンピュータに大きな負荷をかけません

■イメージバックアップの場合.....

■ファイルバックアップなら.....



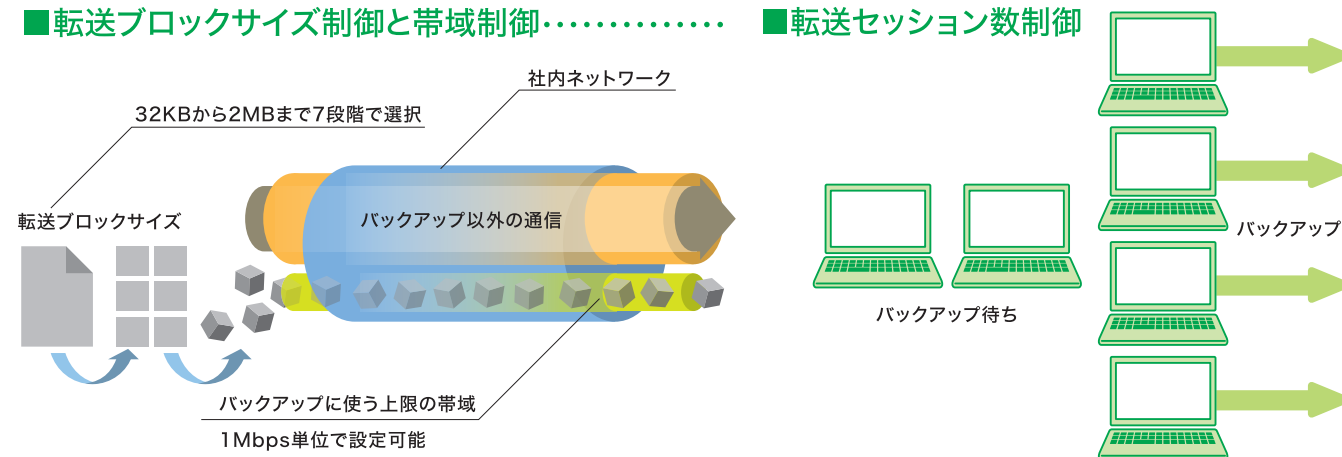
5種類のバックアップタイミング バックアップ元ごとに最適なバックアップタイミングを選べます



ネットワーク制御 バックアップによるネットワーク負荷をコントロールします

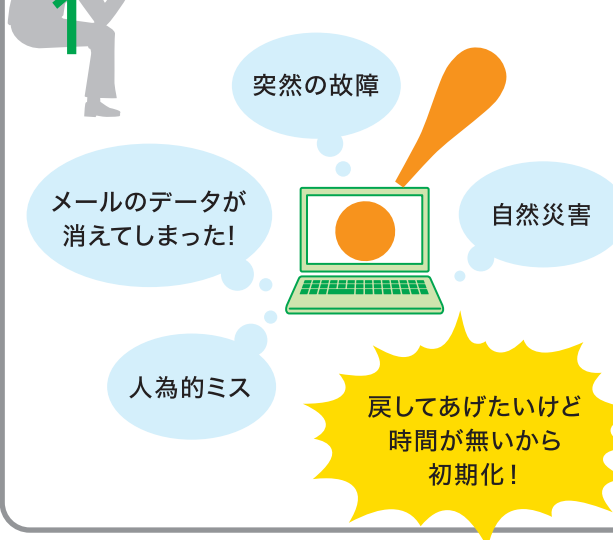
■転送ブロックサイズ制御と帯域制御.....

■転送セッション数制御

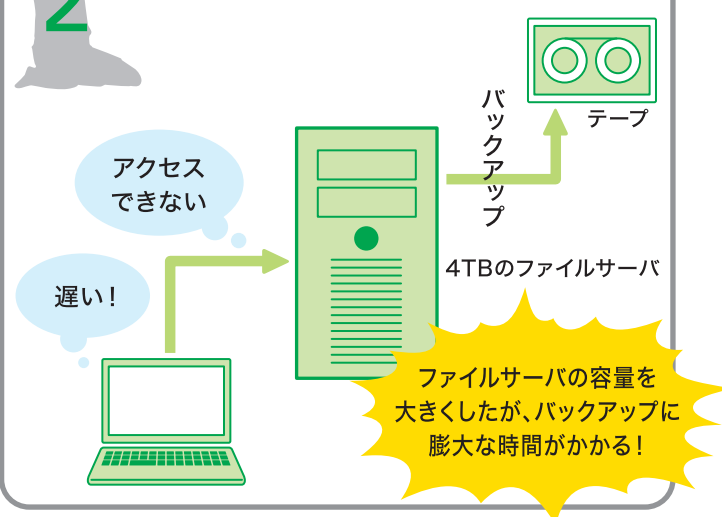


こんなシーンで活躍

CASE 1 PCのバックアップをしていない!



CASE 2 ファイルサーバのバックアップに時間がかかる!



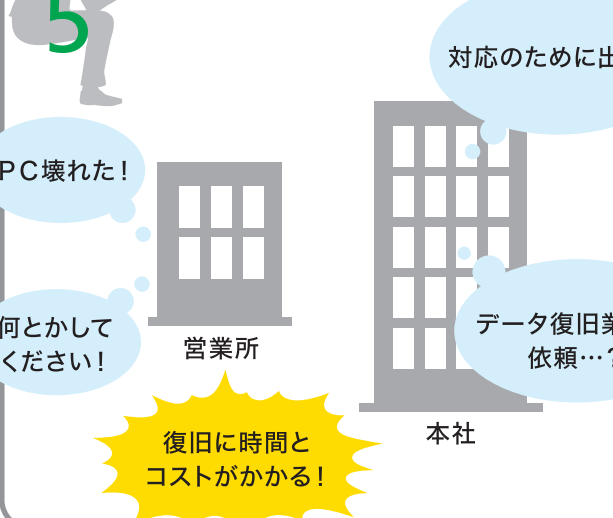
CASE 3 PCの入れ替えが大変!



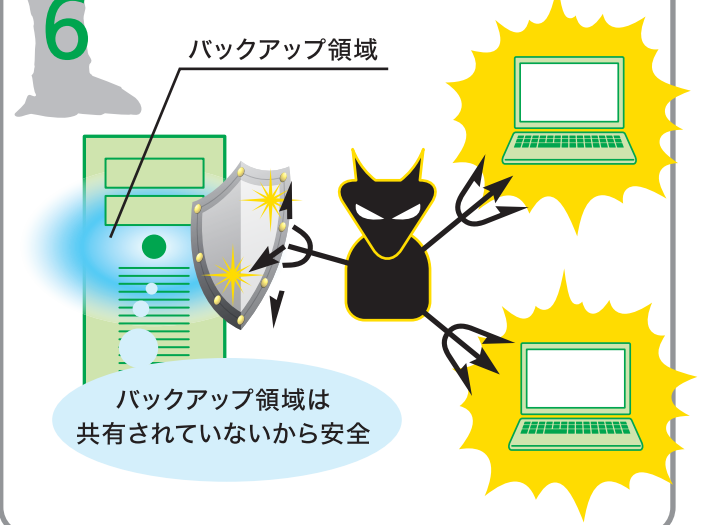
CASE 4 外部にもバックアップしたい!



CASE 5 拠点PCのトラブル対応



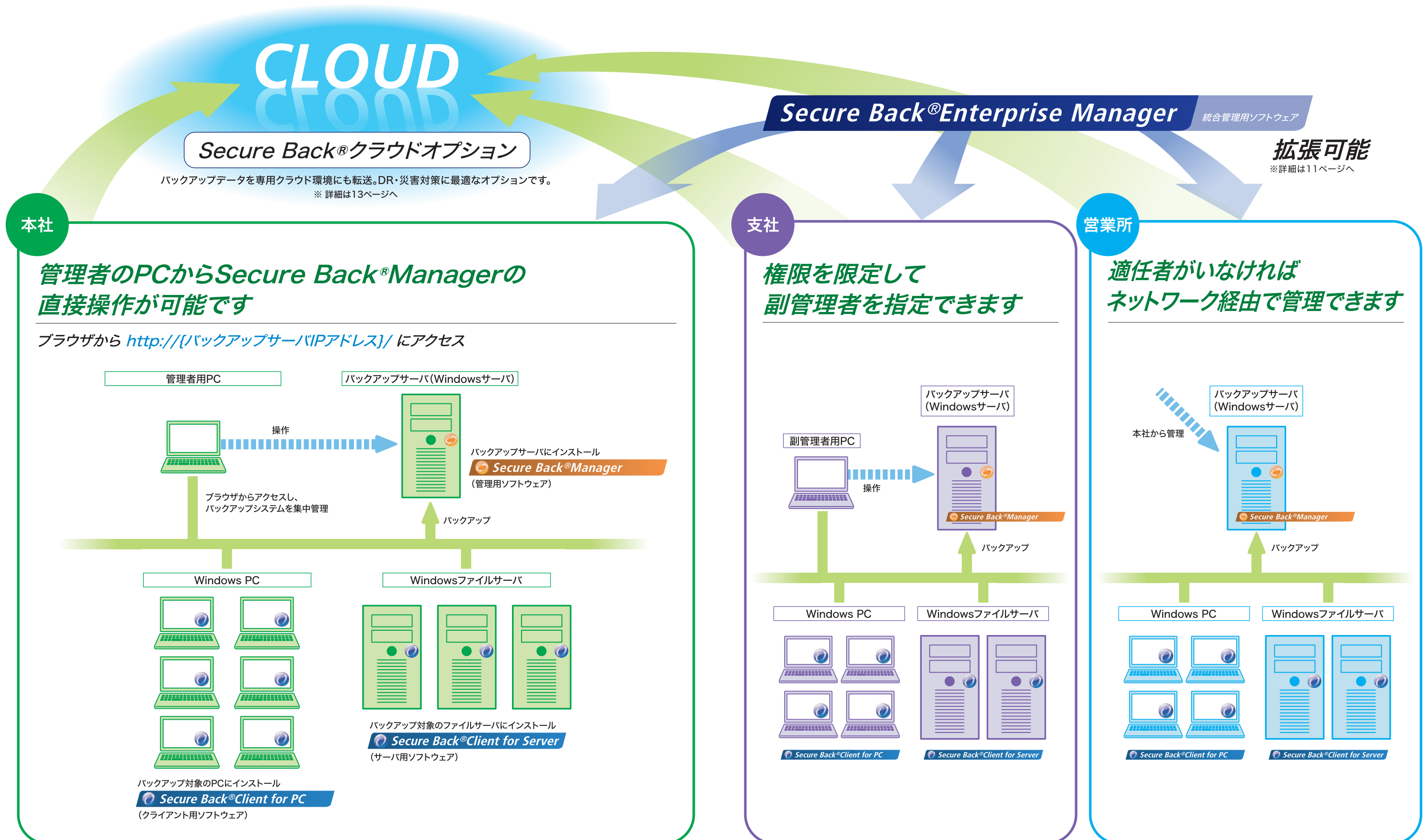
CASE 6 ランサムウェア対策



Secure Back®のシステム構成

すべてのバックアップ設定は管理者が行い、クライアントはその設定に従って自動的に動作します。

オンプレミスからクラウドまで、幅広いバックアップを実現。
複数のオンプレミス環境の統合も可能です。



Secure Back®Manager ユーザ管理画面

わかりやすい管理画面で導入もスムーズ

ユーザ設定

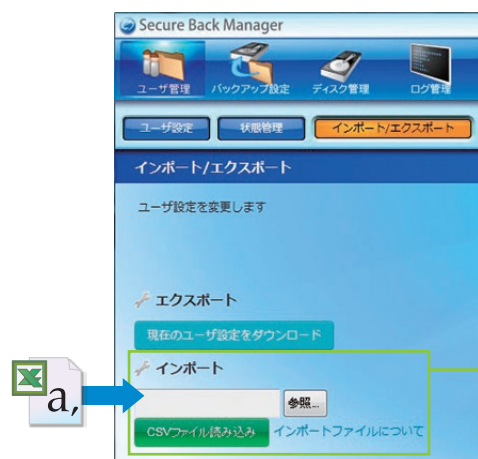


バックアップ設定は全体でもグループ単位でも個人単位でも設定可能

バックアップ容量の上限値を設定

転送速度の上限値を設定

ユーザをインポート



暗号・圧縮などの選択



暗号化／圧縮の選択

暗号・非暗号、圧縮・無圧縮をユーザごとに切り替えられます。圧縮機能を使用するとバックアップデータの容量を大幅に削減することが可能です。

大量のユーザ登録作業もインポート機能で一括登録

テンプレートを使ってインポートすれば面倒な初回のユーザ登録が一度で完了します。

Secure Back®Manager バックアップ設定画面

チェックを入れるだけの簡単設定

PCクライアント用設定画面



メールのバックアップに完全対応
メールクライアントを立ち上げたまま
まで全自動でバックアップします。

バックアップされるデータ

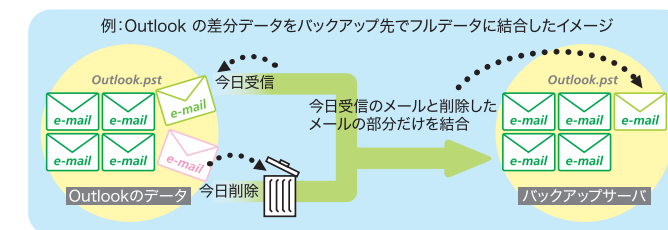
- ・メッセージデータ
- ・アドレス帳
- ・メッセージルール
- ・添付ファイル
- ・迷惑メールフィルタ
- ・ごみ箱
- ・アカウント情報
(※パスワードはバックアップされません)

任意のフォルダは
最大50個設定可能

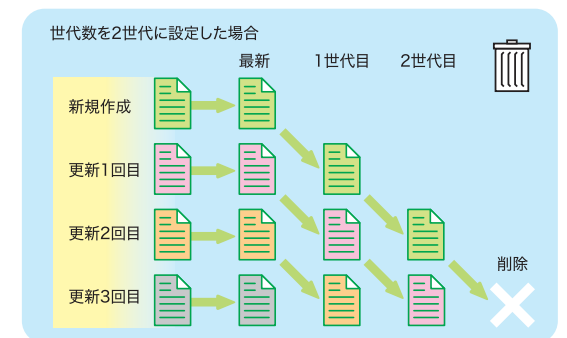
バイナリ差分と差分結合

メールデータが1ファイルに集約されるOutlook、Outlook Express、Thunderbirdでは、変化したバイナリの差分のみを転送し、バックアップ先でフルデータと結合する独自の差分バックアップ方式*を採用しています。転送量を最小限にすることでネットワークにかかる負荷を抑えています。

※PC側にテンポラリ領域としてバックアップ対象データと同じ空き容量が必要です。



1回の更新につき1世代保存するので、大切なデータを間違えて上書きしてしまった場合でも最大「99回前に保存したデータ」まで遡って復旧することができます。

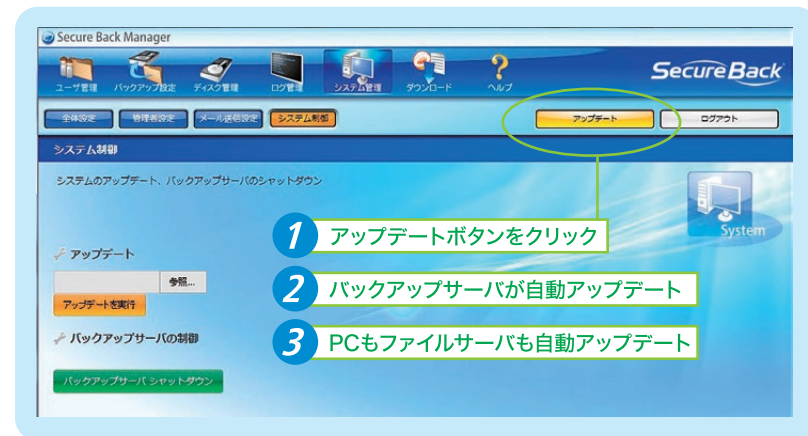


Secure Back®の多彩な機能

充実した機能が様々なシーンで運用を助けます

自動アップデート

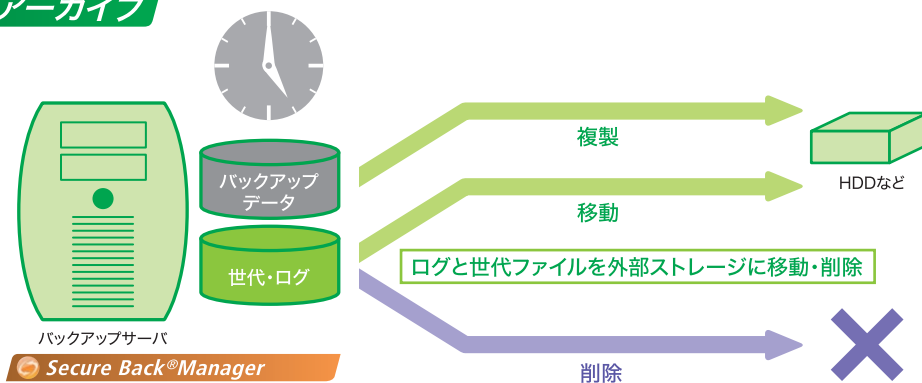
Secure Back®の保守に加入していれば、常にSecure Back®を最新の状態でご利用いただけます。最新版の提供が開始されるとSecure Back®Managerにアップデートボタンが現れ、クリックするとクライアントを含め自動的にアップデートが実施されます。



外部ストレージへのコピーとアーカイブ

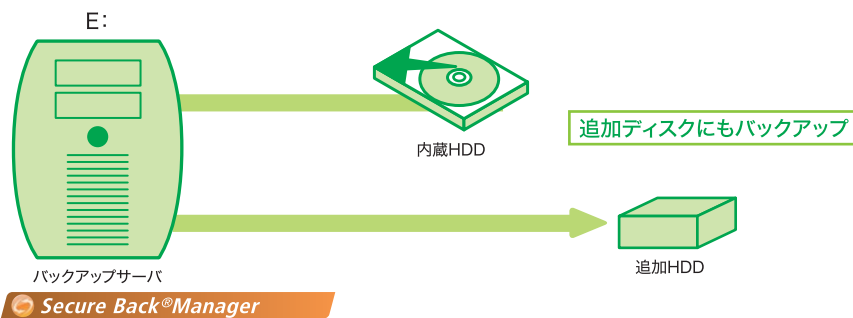
バックアップデータの複製、世代やログデータの移動・削除を、指定したスケジュールで実行できる機能です。バックアップデータの複製先や世代・ログデータの移動先にはローカルディスク以外のストレージも選択可能です。

※テープメディアには対応していません。



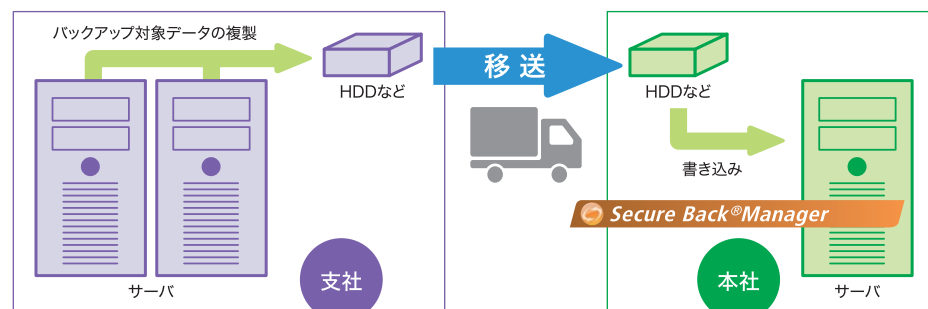
マルチドライブ機能

バックアップ先のドライブを複数指定できます。ユーザ追加や容量の増加に伴うストレージ増設が容易に行えます。



初回フルバックの時間短縮

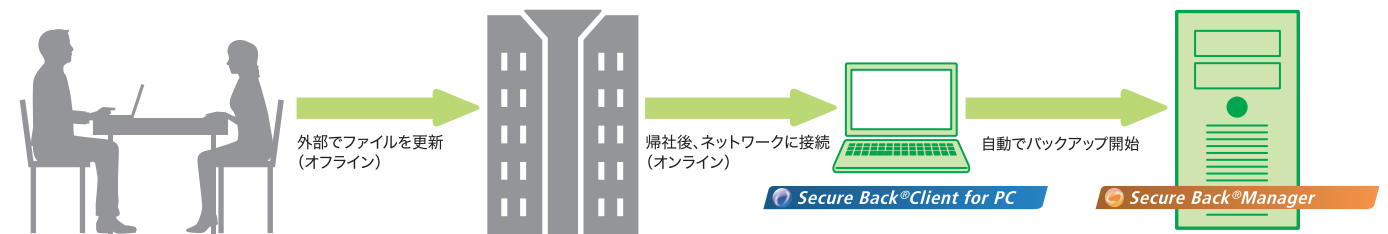
専用エクスポート／インポートツールで、バックアップデータをローカルデバイス経由で書き込むことが可能です。初回フルバックアップの時間を短縮します。



オートコンプリータ

オートコンプリータはクライアント端末のバックグラウンドで動作し、バックアップの整合性を監視しています。バックアップの失敗や漏れを検知すると自動的にバックアップを実行するため、管理者が気にかけることなくバック

アップの完全性を高めてくれます。オフライン中に更新されたファイルもネットワークへの接続後にオートコンプリータが発見・自動バックアップしてくれるので、外出の多いノートPCユーザでも安心してご利用いただけます。



バックアップサーバの管理

バックアップサーバの容量や各種ログなどを管理できます。また遠隔からシャットダウンすることが可能です。

ディスク管理画面

福島の使用状況			
使用領域: 3%	空き領域: 97%		
ログ名	上段領域	使用領域	空き領域
福島	30.0 GB	997 MB	29.0 GB
バックアップ元		使用領域	
マイドキュメント		382 MB	
デスクトップ		455 MB	
Outlook		544 KB	
任意のバックアップ元		150 MB	
Thunderbird		1.05 MB	

バックアップ先ディスクの容量確認

ログ管理画面

操作画面	日時	IPアドレス	操作対象	内容
リストア	2013-10-20 18:57:19	192.168.10.104	福島	リストアログ ログを確認
リストア	2013-10-20 18:53:49	192.168.10.104	福島	リストアログ ログを確認
リストア	2013-10-20 18:51:46	192.168.10.104	福島	リストアログ ログを確認
管理書	2013-10-20 18:50:22	172.19.127.80		ログイン
バックアップ設定	2013-10-20 16:51:58	192.168.10.104	管理本部	バックアップ設定の更新:グループ
バックアップ設定	2013-10-20 16:51:37	192.168.10.104	管理本部	バックアップ設定の更新:グループ
ユーザ管理	2013-10-20 16:39:33	192.168.10.104	五十嵐	ユーザ設定の更新

バックアップ、メンテナンス、オペレーション、アップデートのログを確認可能

サーバ・シャットダウン機能

Secure Back®Managerにログインし、ワンクリックでシャットダウンが可能



バックアップ設定申請

バックアップ設定を、クライアントが管理者に申請する機能です。管理者は承認ボタンをクリックするだけで、申請内容が自動的に反映されます。また、申請機能は管理者側の設定でOFFにすることも可能です。

レプリケーションモード

バックアップ元で削除したデータがバックアップ先でも削除される「レプリケーションモード」に切り替える使用も可能です。バックアップサーバを効率的に使うことができます。

電源OFF時のバックアップ

インテル® vPro™ テクノロジーに対応。電源OFF状態であってもバックアップタイミングが来ると自動的に電源を立ち上げ、バックアップを開始します。(バックアップ後は自動的に電源OFFになります)

制限付き管理者

管理者権限を機能・設定項目別に、新たな管理者に付与する機能です。機能の特権や、グループの特権を振り分けることで円滑なシステム運用が可能になります。

付与できる権限

- 機能の特権
- ☐ ユーザ管理
 - ☐ バックアップ設定
 - ☐ ディスク管理
 - ☐ ログ管理
 - ☐ システム管理

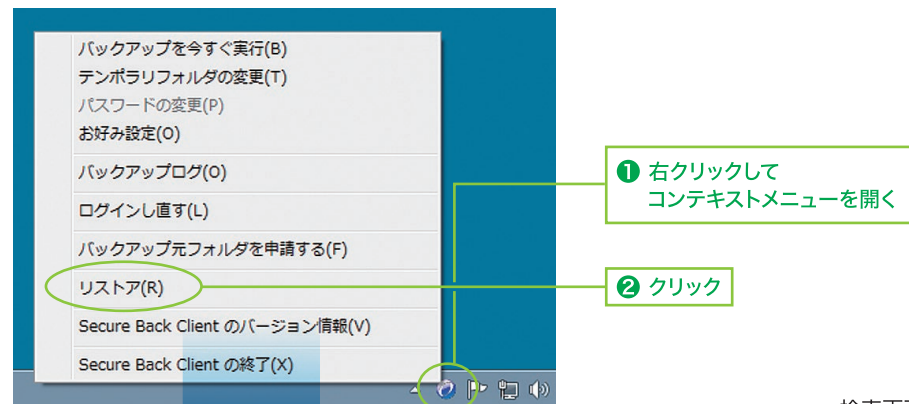
簡単、確実なリストア

ケアレスミスも、重大な故障時も、消失したデータを即座に復旧

PCから起動できるリストア

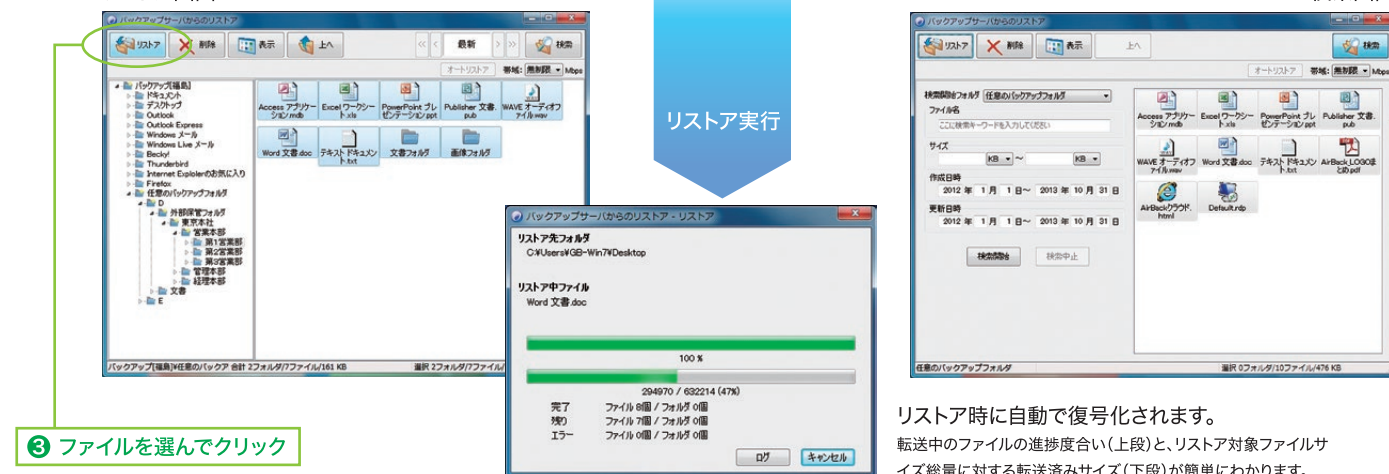
管理者に依頼することなく一般ユーザが自分自身で実行できるので、うっかり消してしまったデータをユーザ自身ですぐに復旧が可能です。もちろん管理者なら、すべてのバックアップデータをリストア可能です。また、ファイルの検索機能も備えているので、必要なファイルを簡単に探し出すことができます。

コンテキストメニュー



リストア画面

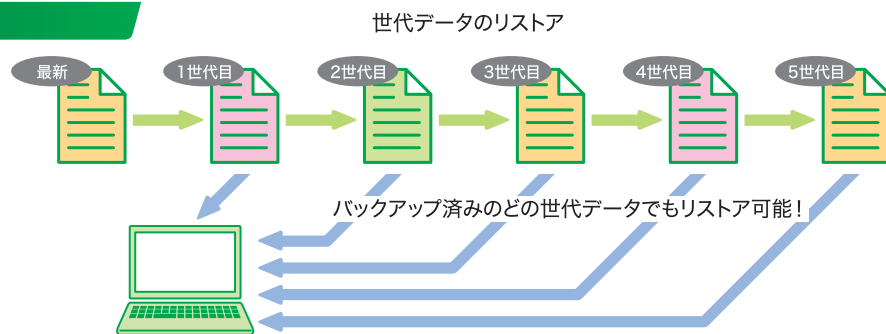
検索画面



リストア時に自動で復号化されます。
転送中のファイルの進捗度合い(上段)と、リストア対象ファイルサイズ総量に対する転送済みサイズ(下段)が簡単にわかります。

世代ファイルからのリストア

貴重なデータを誤って修正してしまい、元に戻さなければならなくなった場合でもSecure Back®なら、設定した世代数まで更新前のデータをいつでもリストア可能です。



オートリストア

すでにバックアップ済みのデータを、新しい環境にすべて自動でリストアする機能です。たとえば、マイドキュメントのデータは新環境のマイドキュメントに自動でリストアされ、PC入れ替え時のデータ移行を、手間をかけずに全自動で実施できます。



以前にバックアップしたデータを元あった場所に自動復旧します。
PCがクラッシュしてもOSとSecure Back®Clientのインストールが終了すれば自動的にデータが復旧されます。

Secure Back®の活用例

既存ユーザ様の上手な活用例をご紹介します

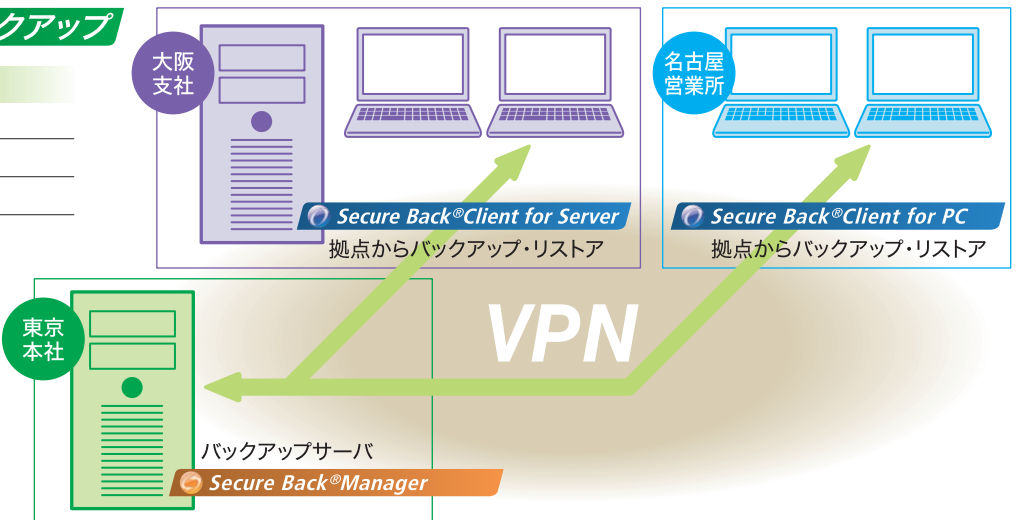
WAN(VPN)経由のバックアップ

活用する機能

上限帯域制御
同時転送セッション数制御
転送ブロックサイズ制御

- 離れた拠点のバックアップが可能
- 離れた拠点でリストアが可能

※ただし各拠点間を結ぶネットワークにVPN網が構築されている必要があります。

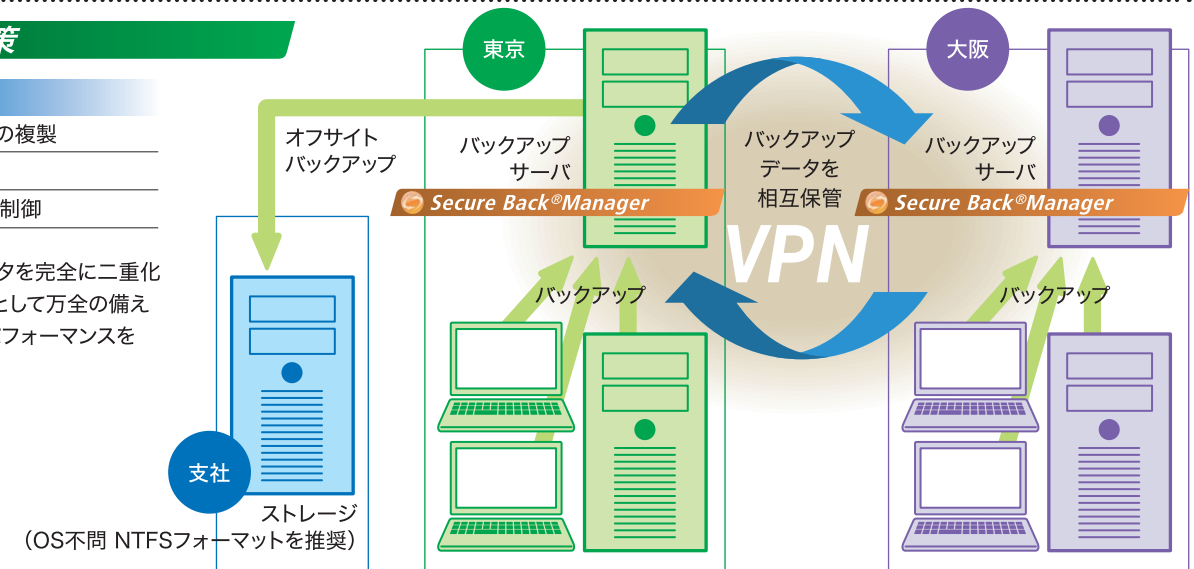


DR・災害対策

活用する機能

バックアップデータの複製
上限帯域制御
転送ブロックサイズ制御

- バックアップデータを完全に二重化
- 万一の災害対策として万全の備え
- LANとWANのパフォーマンスを上手に活用

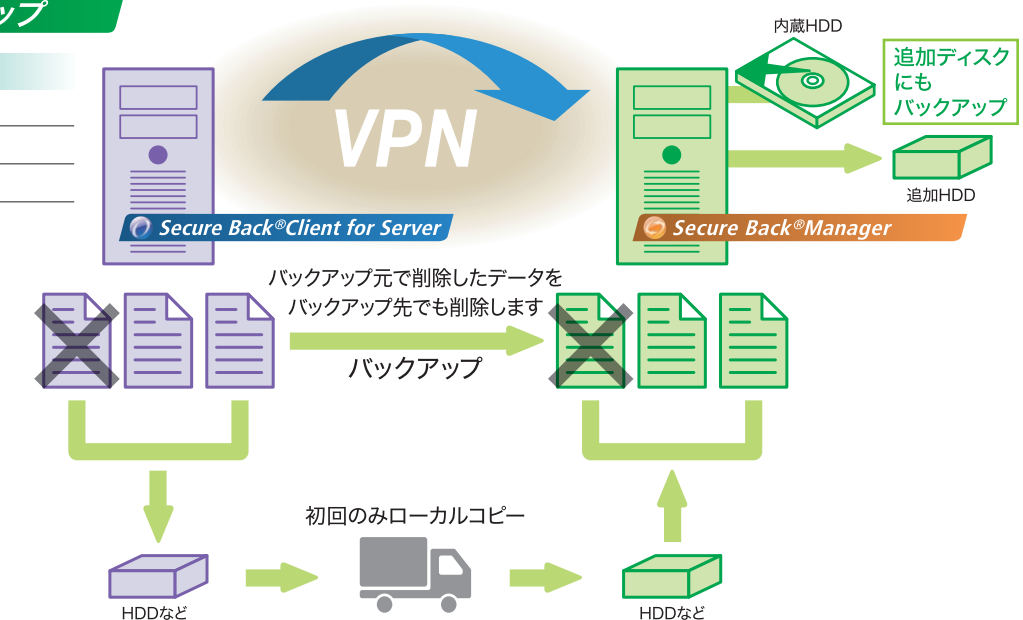


大容量サーバのバックアップ

活用する機能

マルチドライブ
レプリケーションモード
専用エクスポート/インポートツール

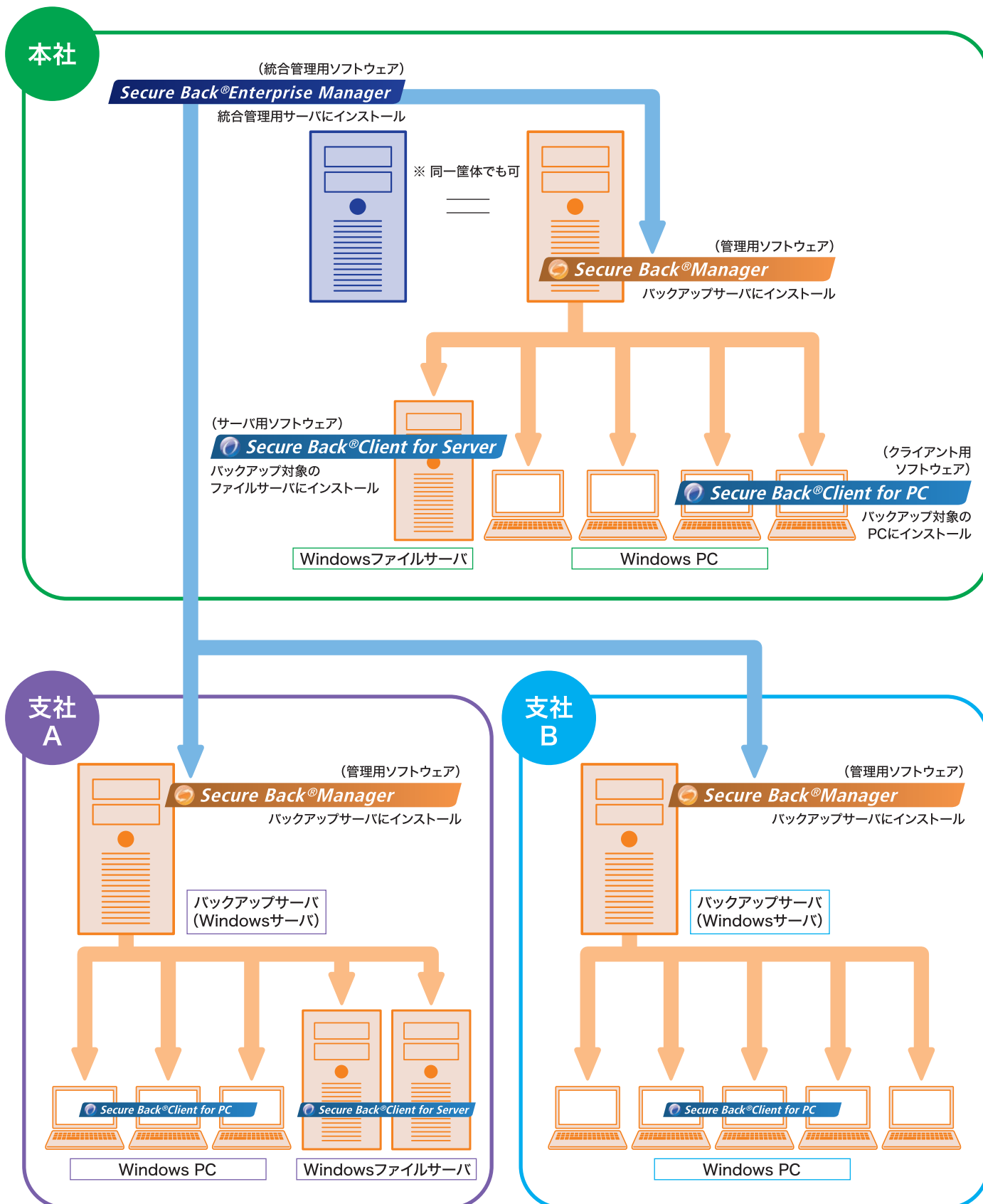
- サーバ容量を効率的に使用可能
- ローカルデバイス経由で初回フルバックアップ時間を短縮



Secure Back®Enterprise Manager

統合管理用ソフトウェア

Secure Back®Enterprise Managerは、複数のSecure Back®を統合管理するためのソフトウェアです。全システムの稼働状況を直感的に管理できるほか、拠点別の帯域制御やシステム間のユーザ移動、ライセンスの振分けなど、大規模に展開したSecure Back®を効果的にご利用いただくための様々な機能を備えています。



大規模層のお客様にお勧めしたいライセンスです。

複数システムのバックアップを統合的に管理し、運用管理の充実とTCO(総所有コスト)の削減に役立ちます。

拠点別に帯域制御が可能に

高速なブロードバンド回線が用意できない拠点からWANを経由してバックアップを取る際に、ユーザ単位ではなく拠点単位で「上限帯域」や「セッション数」を設定することができます。



システム間のユーザ移動もラクラク

人事異動などでシステムをまたぐユーザの移動が発生した際でも、管理者がSecure Back®Enterprise Managerの画面上で操作すれば、各システムに対し変更が自動処理されます。



各システムにライセンスの振分けが可能

所有するライセンスを各システムにいつでも振分けができます。クライアントライセンスだけでなくクラウド容量も振分け可能なので、購入したライセンスを最大限活用することができます。



各システムのステータスを直感的に把握

各システムが正常に稼働しているかやディスク容量が足りているかなど、各システムのステータスが画面で管理できます。プロセッサ、メモリ、ディスク、ネットワークなどのトレンドグラフから、各システムの稼働状況を正確に読み取ることができます。



ホーム画面

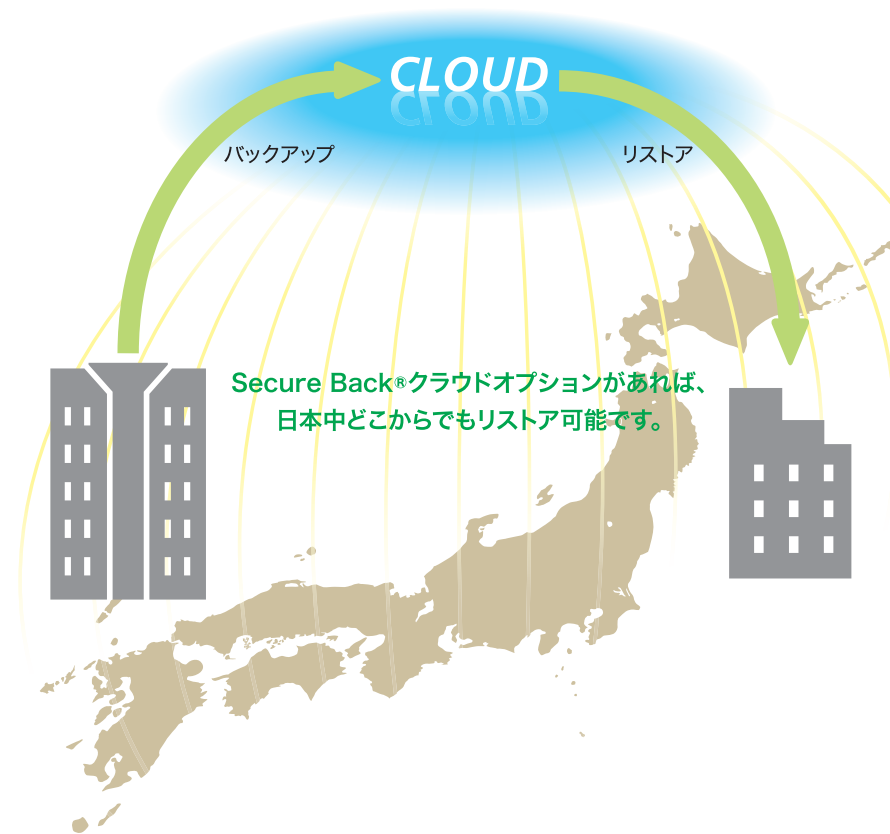


トレンドグラフ



ディスク使用量グラフ

クラウドオプション



国内複数iDCを利用、距離間は数百km以上

Secure Back®で暗号化されたデータは、お客様環境のバックアップサーバからソフトウェアVPNによって暗号化された経路を通り、複数の国内クラウド環境へバックアップされます。クラウド間は数百km以上離れており自然災害などで同時にデータを消失することは事実上ないと言って過言ではありません。また、法人企業での利用を考慮して、Secure Back®で使う全てのクラウドは国内に存在し、バックアップデータが国外に出ていくことは一切ありません。一般的なパブリッククラウドをバックグラウンドに使用していないSecure Back®のために用意された専用クラウド環境なので、セキュリティポリシーの高い企業でも安心してご利用いただけます。

故障時でも災害時でも確実にリストア

Secure Back®クラウドオプションを購入すれば、アップデータが提供する専用クラウド環境を外部保管場所として利用できます。クライアント端末が故障した場合はまずバックアップサーバからリストア。仮にバックアップサーバが故障してもクラウドからリストアできます。万一の災害時には支社などの遠隔地からクラウドへ直接接続してリストアが可能になります。

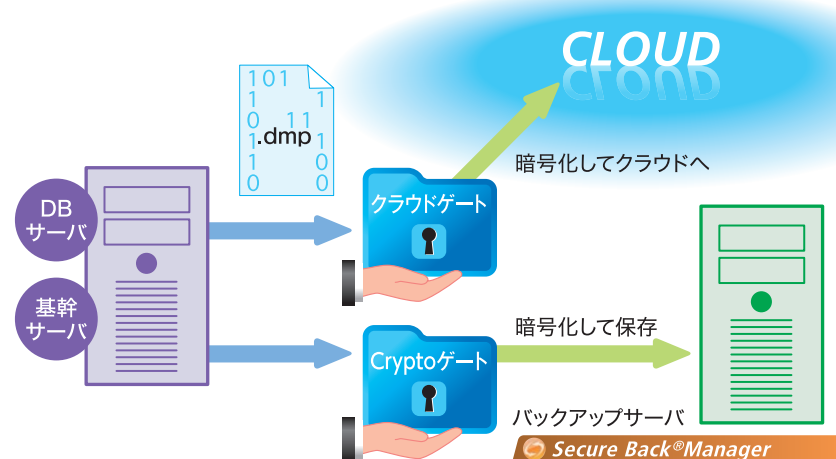
クラウドからのリストア方法

ライセンスID・ライセンスキーでクラウドにログインしてリストア。クラウド上に保存したバックアップデータを取り戻せます。



Windows以外のデータもクラウドへ

バックアップサーバに自動生成されるクラウドゲートとCryptoゲートを活用すれば、SecureBack®が未対応のOSのデータでも自動的に暗号化してバックアップが可能です。Cryptoゲートに置かれたファイルはバックアップサーバ内に保存。クラウドゲートに置かれたファイルはクラウドに保存されます。



サブスクリプション年間ライセンスサービス一覧

1年ライセンス

製品名称	型番	定価
Secure Back Subscription Client for PC 1年ライセンス	SB4CPTS1Y	¥ 12,000
Secure Back Subscription Client for Server 1年ライセンス	SB4CSTS1Y	¥ 72,000
Secure Back Subscription クラウドオプション 1TB 1年ライセンス	SB4CO1TBT51Y	¥ 300,000

※お申込みには別途申請書が必要です。

5年ライセンス

製品名称	型番	定価
Secure Back Subscription Client for PC 5年ライセンス	SB4CPTS5Y	¥ 60,000
Secure Back Subscription Client for Server 5年ライセンス	SB4CSTS5Y	¥ 360,000
Secure Back Subscription クラウドオプション 1TB 5年ライセンス	SB4CO1TBT55Y	¥ 1,500,000

※お申込みには別途申請書が必要です。

■ 契約について

お申込み後、ご利用開始された月は無料となり、翌月1日から費用が発生します。ご契約期間は1か月単位となります。1年間または5年間の利用権と保守が付属します。